

ポスター発表（専門領域別） | 専門領域別：コーチング学

■ 2025年8月29日(金) 13:30 ~ 14:30 ■ メインアリーナ(入口側)(スポーツ棟 2階) / コーチング学

[3b1165-195] コーチング学（奇数演題） / ポスター発表

[09コ-ポ-47] 日本フロアボール選手権大会男子競技におけるチームスタッツの一考察

*浅井 泰詞¹、鈴木 タケル^{2,3}、北 徹朗⁴ (1. 高千穂大学 人間科学部、2. 武蔵野美術大学大学院、3. 日本プロゴルフ協会、4. 武蔵野美術大学)

フロアボールは北欧発祥の屋内で行われるホッケー型のスポーツである。近年、ゴール型の球技において多くのゲーム分析が行われており、同じゴール型球技であるフロアボールにおいても競技力向上のための分析が重要となってくる。そこで本研究では、日本フロアボール選手権大会での得点傾向やチームスタッツを分析し、今後の研究の基礎データを得ることを目的とした。日本フロアボール選手権大会の男子8試合を分析対象とし、各ピリオドの得点、シュート数、キーパーセーブ率、ペナルティ数を算出した。ペナルティ数について、本研究においては2分間の退場であるベンチペナルティをペナルティ数とした。その結果、8試合の合計得点は65点であった。勝利チームの平均得点は、第1ピリオドが 1.6 ± 0.92 点、第2ピリオドが 2.0 ± 1.41 点、第3ピリオドが 1.6 ± 1.19 点であった。敗北チームの平均得点は、第1ピリオドが 1.5 ± 0.53 点、第2ピリオドが 0.8 ± 0.89 点、第3ピリオドが 0.6 ± 0.742 点であり、第2ピリオドと第3ピリオドでは勝利チームの平均得点が高い傾向が見られた。合計シュート数は338本であった。勝利チームのキーパーセーブ率は $86.1 \pm 4.04\%$ 、敗北チームは $74.2 \pm 8.58\%$ であり、勝利チームのキーパーセーブ率が有意に高い値を示した。シュート数では勝利チームが 21.0 ± 5.63 本、敗北チームが 21.3 ± 6.80 本と有意な差異は示されず、キーパーセーブ率が勝利に大きく影響を与えていることが示唆された。ペナルティ数は合計で19回あり、勝利チームのペナルティ数は7回、敗北チームのペナルティ数は12回であった。ペナルティ中の得点は6点あり、僅か2分間での得点率が68.4%であることから、試合中のペナルティ数が重要である可能性が示唆された。今後は調査試合数を増やし、さらなる分析を行う必要がある。